韓国商業地域における「マウル・マンダルギ」に関する研究

A STUDY ON THE “MAUL-MANDULGI” OF BUSINESS AREA IN KOREA

郭 東 潤 —— * 1

キーワード：
マウル・マンダルギ, 環境改善, コミュニティ, パートナースhip, 商業地域, 韓国

Keywords：
Maul-mandulgi, Environmental improvement, Community activity, Partnership, Business area, Korea

Dongyun KWAK —— * 1

Since 1990s, Maul-Mandulgi has been carried out for living environment improvement and community regeneration in Korea. Maul-Mandulgi is a new type of community activity of which theme is developing community environment together with citizen's organizations or community experts as well as local people. The purpose of this paper is to analyze active development factor and tasks of Maul-Mandulgi at three business area in Korea. The following results were obtained: The main active development factors are regeneration of public space or street place, and revitalization of business area. There are two types of development process; local people proposal type and public works cooperation type. However, this process remains second question; participation system and activity supporting system.

1. はじめ

1.1 研究の背景と目的

日本のまちづくりは、1970年代の大きな社会的変動の中で、住民による身近な生活環境の課題解決手法として展開された^{*1}。その後、全国各地で様々な活動が行われており、これらの研究も数多くなされている。一方、韓国では1990年代に入り、経済成長や地方分権の定着に伴い、生活環境やコミュニティ再生についての議論が活発に行われている。この中、2000年「住民提案制度」導入や2007年「住みたい都市づくりモデル事業^{*2}」等によって、住民主体のコミュニティ活動促進や新たな地域づくりが期待されている。

その中、近年、生活環境に対する住民のコミュニティ活動として「マウルマンダルギ^{*3}」が展開されている。これまでは行政による物理的整備に依存してきたが、この活動では住民またはパートナーシップによる環境改善が展開されており、その後の管理運営を含めた総合的な取り組みも見られつつある。今後、マウルマンダルギが多様な主体参画による継続的な環境改善手法として発展する可能性も考えられる。そのため、マウルマンダルギについて社会的要因や空間的背景を考察した上で、展開過程における主体別の活動分析、参加や支援仕組みを検討する必要がある。

このような認識にたち、本研究の目的は活発なマウルマンダルギ活動が見られる3つの商業地域^{*4}に対象に、社会的側面と空間的側面から展開要因と課題について明らかにすることである。調査方法は各主体に対するヒアリング調査と現地調査による。なお、現地・ヒアリング調査は2006年2月12～16日、2007年3月10～12日、8月22～24日に行われた。

1.2 既往研究レビュー

これまで日本における韓国まちづくりに関する研究は、主体別関係性分析^{*5}や展開プロセス分析^{*7}について扱った研究がある。一方、韓国においても、近年、活動内容の分析^{*8}やコミュニティ意識^{*9}に関する研究が見られるが、本研究の視点から論じた商業地域に関する研究は手薄である。本研究は、今後の日韓まちづくり比較論として重要な知見を得ることができると考えられる。

2. 「マウル・マンダルギ」の歴史的展開

マウルマンダルギの出発は、1970～80年代の地域運動にある^{*10}。1980年代の半ばまでの政府主導による生活改善運動や民主化運動は、地方自治制が実施された1990年代に入り、運動の展開形態が多様化した。特に1980年代に数多く見られた社会要求型の市民運動から、地域の生活環境やコミュニティ回復のような共同体運動が見られるようになった^{*11}。そして1990年代の後半に入り、生活環境から地区レベルのコミュニティ活動として発展されたのが、マウルマンダルギである。この用語は1990年代後半から専門家の間で日本のまちづくりと類似な概念として使われ始めた。これまでも地域マンダルギ、マウルカクギなどの用語が使われてきたが、1990年代後半からマウルマンダルギとして定着しつつある。しかし、まだ明確な用語定義はされておらず、本研究では「生活環境の総合的テーマを改善するために多様な主体がコミュニティに根ざして行う行為」と定義する。

マウルマンダルギの類型別展開は、<表1>に区分できる^{*12}。住居地域は地下駐車場や商店街一部の施設を文化教室等のような公共施設化や、コルモクギルづくり等のような生活環境改善活動が見られる^{*13}。商業地域は商店組織を中心とした街路整備活動や、地域固有の環境づくり活動が展開されている^{*14}。その他に、公共施設の空間改善活動も見られる^{*15}。特に商業地域のマウルマンダルギは、商店街の衰退による住民の内発的活動または行政の環境整備が多く見られるが、市民団体との協働による活動も特徴的である。

表1. マウル・マンダルギの類型別展開

		活動内容	活動主体	活動支援
住居地域	団地型	・団地内イベント ・便宜施設の改善 ・入口の緑化増進	団地内の婦人会等の住民組織	住民組織運営費
	住宅型	・コルモクギル等の生活環境改善	住民自治組織 市民団体	行政の補助金
商業地域	商業型	・街路祭り等の市民参加プログラム ・街路空間改善等	商店主中心の組合	商店街組織運営費 行政の補助金
	保存型	・保存型空間づくり ・地域認知プログラム	商店主中心の組合 市民団体や専門家	行政の補助金
その他		公共施設物のイメージ改善	自治体	行政の補助金

*2006年日本建築学会大会学術講演会(於: 神奈川大学)

*1 千葉大学大学院工学研究科 助教・博士(工学)
(〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33)

*1 Assistant Prof., Graduate School of Engineering, Chiba University, Dr. Eng.

3. マウル・マンダルギの側面別展開要因

3.1 商人による富平文化通りの環境改善

1) 社会的な側面

富平文化通りは、ソウル中心部から1時間ほどに位置し、1960年代から伝統市場として成長してきた。しかし、1970～90年代にかけて、工業地域の造成や大規模団地の建設等、急速な地域開発が進んだ。開発は人口増加とともに、大型店舗の到来要因となり、またソウル市中心部との近接性^{*16}から商店街の商圈縮小や衰退を招いた。これらにより、住民による商店街の再活性化手法として展開された。

2) 空間的な側面

地域商店・住民は、商店街の大きな衰退原因として不法露店の混在を取り上げた^{*17}。100店舗以上の不法露店による街路空間の占拠は、ゴミ処理等の衛生問題や災害時の安全性について大きな課題とされていた。

これらに関して、建築主と地域住民・商店を中心に組織された商店街繁栄会は、街路空間の公共性の確保と、地域伝統市場の復活を伴う新たな地域文化空間の創出を目的とした環境改善活動に取り組んだ。

3.2 環境改善事業による老遊ロデオ通りの環境整備

1) 社会的な側面

老遊ロデオ通りは、ソウル市中心部から30分弱に位置する衣類サービス業の中心地である。ソウル市は、既成市街地の再活性化と、地域固有の特性を活かす都市管理コントロール手法の一つとして、モデル街路造成事業を実施した^{*18}。そして、公共事業に対する住民や住民協議体の参加可能性、民間建築行為の誘導可能性等の基準による事業選定が契機になった。

2) 空間的な側面

地下鉄2号線と7号線の交差地域に位置する利便性によって、1990年代半ばから常設衣類店が密集し始めた^{*19}。しかし、立看板の乱立

や歩道の商品展示、駐車やゴミ等の衛生管理が地域の解決課題であった。また、商店街の設備老朽化による商圈沈滞が長期化し、この解決組織として1997年に地域住民と店主を中心とした住民協議体が結成された。この協議体は、立看板や商品展示等のコントロールによる歩行空間の確保や、生活環境管理に取り組んだ。

3.3 協働による仁寺洞通りの歴史的環境づくり

1) 社会的な側面

仁寺洞通りはソウル市中心部に位置し、朝鮮時代初期から庶民の文化情報発信地として発展した。現在も骨董商等の伝統文化小型店舗が、当時の歴史的環境を維持しており、観光名所として知られている。しかし、建物の老朽化^{*20}と、仁寺洞通り内の約90%が賃貸店舗であることから、地域再生の名目で大規模開発が次々計画された。この状況の中、歴史的環境保存のために、地域商店を中心とした多様な主体が協働による歴史的環境づくり活動に取り組んだ。

2) 空間的な側面

開発と保存の議論の中、1999年に仁寺洞通りの中心部に位置する12店舗が建設業者に買収され、再建築計画が発表された^{*21}。また、地域の歴史的環境と異なる外国チェーン店の乱入や商店大型化が進んだ。長い間に小型店舗で営まれてきた伝統文化店舗の急激な激減等^{*22}、歴史的空間の維持要素の破壊が要因となり、パートナーシップ活動が展開された。

図2. 富平文化通りの様子（左）と露店（右）

図3. 老遊ロデオ通りの風景

図4. 仁寺洞通りの12店舗

図1. 調査対象地の位置図

表2. 調査対象地の概要と展開要因

	富平（ブジョン）文化通り	老遊（ノユ）ロデオ通り	仁寺洞（インサドン）通り
位置	仁川広域市富平区	ソウル特別市広津区	ソウル特別市鐘路区
面積	延長：250m・幅員：15m	延長：390m・幅員：8m	延長：690m・幅員：12m
地域現況概要	・開発成長による伝統的市場の破壊 ・大型店舗到来による商店街衰退	・一般商業および準住居地域 ・小型衣類店舗の密集地域	・伝統的文化店舗による文化地区 ・朝鮮時代からの都市空間構造の維持
展開要因	・大型店舗による伝統市場の商権縮小 ・不法店舗の混在による災害時の安全性 ・地域市民の文化空間不足	・既成市街地街路環境改善事業の選定 ・商店街の活性化と地域環境改善 ・パートナーシップによる環境整備の試み	・開発圧力による歴史的環境の破壊 ・大型及び外国チェーン店の到来危機 ・持続的な市民団体の活動と市民の関心
協働主体	・富平市場商店街繁栄会（建築主） ・文化通り発展推進協議会（賃貸商店） ・行政（富平区） ・市民団体（都市連帯・仁川市民連帯）	・ノユ通りカクギ [※] 住民委員会（地域商店） ・行政（ソウル市・広津区・ノユ洞） ・専門家（ソウル市政開発研究院） ・市民団体（都市連帯）	・仁寺洞伝統文化保存会（地域商店） ・行政（ソウル市・鐘路区） ・専門家グループ（仁寺洞ゼモスツプ [※] 探し準備委） ・市民団体（都市連帯ほか多数）
整備費用等	・造成運動：商店募金（100～500万円） ・整備費：富平区＋商店募金（6000万円）	・整備費：ソウル市街路環境改善事業費 ・看板：商店個人（一部）負担	・整備費：鐘路区・歴史文化探訪路造成費 ・看板：商店個人（一部）負担

4. 環境改善の主体別取り組みと成果

4.1 住民合意による富平文化通りの街路環境改善

住民側は、まず約40名程の建築主中心の「商店街繁栄会」を構成し、街路改善策として街路造成事業の推進を試みた。繁栄会は街路環境整備のみを目的にする公共事業に対し、地域空間の公共性の確保とともに、地域再活性化の一環事業として行政側に実施要請を行った。また、周辺賃貸商店も繁栄会に所属または緊密なネットワークを構築し、活動資金の募金や住民勉強会、市民公聴会等の活動に積極的に取り組んだ^{※23}。

さらに賃貸商店を中心とした「文化通り推進協議会」が結成された。この協議会は文化通り造成方案や露店の解決策を探る目的で組織され、市民団体との協働ワークショップを通して、街路空間と不法露店の実態調査を行った^{※24}。それに基づき、露店主も含めた利害関係者は計7回の説明会を行い、1) 露店運営事項、2) 固定式から移動式販売台への変更及び営業終了後の管理、3) ゴミなどの衛生管理を主な合意項目とし、文化通り提案の合意に至った。そして行政に合意成果と露店との共存型文化通りの提案を行い、1996年に文化通り指定を受けた。

翌年から、行政による街路整備事業に伴い、商店主募金による噴水台やベンチが設置された。また、各主体による意見交換体制が構築され、現在、地域整備管理や定期的な文化プログラム等の文化通り運営について主体的に取り組んでいる。

4.2 住民協議体と老遊口デオ通りの環境改善事業

モデル事業によるロデオ通り環境整備は、多様な主体が関わったにも関わらず、共通認識から出発したことで各々の主体役割が明確であった。

まず住民側は、環境整備事業に対する地域代表性を持つ組織の必要性から、「老遊通りカクギ住民委員会^{※25}」を結成した。この住民組織は、地域商店や住民と定期的な意見交換を通じて、整備事業の計画段階から実施段階に至るまで、行政と意見調整の役割を果たした。さらに、市民団体との共同研究会を通して、住民協定の締結^{※26}や地域管理まで積極的に取り組んだ。これらの活動に基づき、商店主体による看板設置や、交通方式の変更を含めた街路整備が、公営駐車

場の設置等の公共事業と連携し実施された。

一方、市民団体は住民が地域現況や諸課題を把握するため、住民との共同研究会やマウル学校等の自主的な地域活動に取り組んだ。また整備事業実施に住民の参加誘導や、住民組織の構成員間または住民と行政間の意見調整を仲介する役割を果たした。

行政及び専門家は、モデル整備事業推進体制として都市設計企画委員会を構成し、各主体の参加と合意に基づいて事業推進を図った。特に委員会による具体的な整備計画や補助手法の提示等を通して、公共事業における住民合意の仕組み構築を試みた。

4.3 保存運動による仁寺洞通りの歴史的環境づくり

12店舗保存運動を含めた地域の歴史的環境保存活動では、開発と市場経済論理による利害関係者間の複雑な関係性が見られる。

まず、保存活動の主な主体は、住民と市民団体である。これらの主体は、歴史的環境保存活動の一環として仁寺洞学校や文化プログラムの実施、また地元企業との協働による歴史的文化的探訪プログラムの展開に積極的に取り組んだ。特に12店舗に係わる一連の運動は、世論の支持や市民参加型運動を進展させ、問題解決を試みた^{※27}。

この運動の展開において、市民団体の役割は注目すべきである。市民団体の持続的な地域活動は、住民と地域問題の共有、人的ネットワークが構築され、保存運動をサポートする重要な要因となった。さらに、市民団体内の「インサモ^{※28}」は、運動展開が制度的な専門的領域に変化するに従い、住民側への対応策の提示や、利害関係者間の意見交換の場を設ける等、仲介者の役割を果たした。

一方、都市管理の主体であるソウル市と鐘路区は、文化街路造成政策を打ち出し、街路整備や文化地区の指定に取り組んだ。しかし、利益団体の請願に譲歩したり、十分な住民意見交換を得られないまま歴史探訪工事を断行する等、住民と相反する立場をみせることもあった。

5. まとめ

韓国のマウル・マンガルギは、全国各地で短期間に多面から様々な試みが展開されており、自治体も住民参加やパートナーシップ事業による環境改善手法の可能性について注目している。

表3. 環境改善の取り組みと主体別の活動

		富平（プピョン）文化通り	老遊（ノユ）ロデオ通り	仁寺洞（インサドン）通り
住 環 境 整 備	空間的側面	・街路の物理的整備 ・住民による噴水台やベンチの設置 ・不法店舗の整理による安全性の確保	・街路の物理的整備 ・車両交通方式の変更 ・公営駐車場の設置	・街路特性を生かした物理的整備 ・地域特性と調和した小型店舗整備 ・不法屋台の整理による安全性の確保
	ソフト側面	・文化プログラムの実施 ・文化通り活性化ワークショップの開催 ・賃貸商店と建築主の意見交換体制構築	・住民対象アンケート調査 ・住民側による自主的な通り広報活動	・車のない通り（土・日）指定 ・歴史的文化的空間の管理組織構築 ・定期的な歴史的文化的プログラムの実施
主 体 別 活 動	住民/住民組織	・文化空間の必要性による文化通りの提案 ・賃貸商店と建築主による協議体の構築 ・不法露店実態調査及び共存仕組みの提案	・住民協議体（ノ通りカクギ住民委員会）構成 ・ノユロデオ通りの住民協定締結	・歴史的環境保存会の結成 ・市民団体と協働の「仁寺洞学校等」実施
	行政	・文化通り指定（住民側提案）の受容 ・住民側との協議による街路整備造成	・戦略的な住民参加の誘導 ・長期低利による看板設置費用の補助	・建築許可制限や文化地区の指定 ・住民側との協働による街路整備造成
	市民団体	・住民組織と協働ワークショップの実施	・住民参加の誘導及びマウル学校の進行 ・住民と行政間の意見調整役割	・持続的な歴史的環境保全運動 ・専門グループ結成による地域調査
	企業	-	-	・歴史的環境と調和した店舗づくりの協力
	専門家	・街路空間分析及び整備に関する助言	・具体的（包装や看板等）な街路整備計画	・市民団体と歴史的文化的保全活動
	備考	・住民側の資金募金による噴水台等の設置 ・住民側による空間管理ルール（案）提示	・既存の公共事業と連携した街路環境改善事業費による街路整備	・ゴルモクギル（路地）保全活動 ・ゴルモクギルに一坪公園づくりの試み

これらの活動に対し、現行の法制度的な位置付けはされていないが、自治体によっては環境改善事業として位置付ける場合も見られ始めている。また支援の仕組みはまだ構築されていないが、公共事業との連携による整備補助としての支援が少しずつ増えつつある。

商店地域のマウルマンダルギでは、富平文化通りや仁寺洞通りのような住民提案方式と、老遊ロデオ通りのような公共事業連携方式が見られる。その展開要因として、急激な経済成長による商店街の衰退と街路空間の破壊が挙げられる。特に商店街の衰退は単なる商店街だけではなく、地域問題との密接な関係性を持つため、行政や商店街組織の連携によるマウルマンダルギが見られる。その取組みをみると、富平文化通りや老遊ロデオ通りのような物理的環境改善による再活性化や、仁寺洞通りのような歴史的環境保全による地域活性化を図っている。また、老遊ロデオ通りのように行政と住民が協議を通じた長期的整備計画の樹立や、仁寺洞通りのように市民団体と協働で歴史的な文化プログラムの実施など、ソフト的活動も平行して行われている。

主体別活動は、利害関係者間の対立もみられるが、各主体の合意によって展開されている。その中、市民団体は住民や行政とともに活動主体として、合意形成過程においても仲介者の役割を果たしている。しかし、市民団体は仲介者として実践力を持つ重要な主体と考えられるが、参加や計画システム、活動支援の仕組みが不明確であり、明確な仕組みづくりが課題となっている。

今後とも、韓国のマウル・マンダルギについて、日本のまちづくりと比較分析しながら展開方式や参加・計画システム、活動支援等の仕組みについて考察を深めたい。

<補注>

- ※1 詳細内容は、参考文献1)を参照する。
- ※2 本事業は住民・自治体の関心誘導及び早期定着を目的に、建設交通府(現、国土海洋府)の推進事業である。実施事業は住民主導のまちづくり活性化を目的とした「示範(モデル)マウル事業」と、都市特化づくりを目的とした「示範(モデル)都市事業」がある。2007年は示範マウル事業:25箇所・示範都市事業:5都市が実施され、2008年は新たに示範マウル事業:20箇所、示範都市事業:6都市が選定された。詳細内容は、参考文献2)・国土海洋府ホームページを参照する。
- ※3 「マウル」は、生活コミュニティ活動が可能な範囲としたマチ(街・町)の意味であり、「マンダルギ」は作りや創造の意味で、さらに発展の意味も含んでいる。詳細内容は、参考文献4)と5)を参照する。
- ※4 3つの対象地は参考文献5)と、インターネットによる予備調査を行い、商業地域の固有特性や展開要因、持続的活動の有無によって選定した。
- ※5 菅原愛夏・吉村輝彦・渡辺俊一(2003)、「韓国における「まちづくり」の特徴及び課題－釜山のまちづくり活動に着目して－」、第38回日本都市計画学会学術研究論文集、pp.883～888
- ※6 郭東潤・北原理雄(2002)、「韓国における「マウル・マンダルギ」の特徴と課題－仁寺洞における市民団体の活動を中心に－」、2002年度日本建築学会関東支部研究報告集、pp.253～256
- ※7 郭東潤・北原理雄(2002)、「中心市街地における歴史的環境保存運動の展開とそのプロセスに関する研究－韓国ソウル市・仁寺洞地区を中心に－」、第37回日本都市計画学会学術研究論文集、pp.1123～1128
- ※8 Kim, E. J 他(2003)、「住民参加マウル・マンダルギの活動内容と参加主体に関する研究」、韓国都市設計学会、pp.109-116(韓国語)
- ※9 Ko, E. J 他(2006)、「崩壊し事業による歩行環境の変化がコミュニティ意識に及ぼす影響」、韓国都市設計学会誌『都市設計』第7巻第4号、pp.77～86(韓国語)
- ※10 1960～70年代のセマウル運動と、1980年代の民主化運動が代表的な例である。セマウル運動は当時、行政政策による農漁村の生活改善運動であったが、この運動は韓国全域に主体的な地域開発意識を高揚させる契機となった。特にセマウル活動展開のための住民コミュニティ組織が、現在の韓国市民団体の元祖ともいえる。セマウル運動の詳細

内容は、参考文献6)を参照する。

- ※11 主に婦人会や青年会等を中心に1980年代の経済成長期に崩れたコミュニティ回復や居住環境の改善を目的に展開された運動である。
- ※12 <表1>は参考文献5)に基づき、類型化を図った。
- ※13 「団地型」とは主に団地内の活動、「住宅型」とは一戸建住宅内の活動を意味する。団地型では団地内の施設改善活動が数多くみられる一方、住宅型ではコルゴクギル(＝路地)を中心とした地域コミュニティ創出や公共空間の改善活動が多数占めている。
- ※14 「商業型」とは一般商店街内の活動、「保存型」とは歴史的資源の活用による商店街内の活動を意味する。
- ※15 一例として住民提案による警察署を地域学習の場として活用や、駐車場の公園化等が挙げられる。この活動は既存の公共施設に対するイメージ改善が主な目的であり、自治体実施の以後から増加している。
- ※16 地下鉄の開通(1999)や乗用車の普及によって、富平地域がソウル市の商圏として含まれた。
- ※17 文化通り発展推進協議会の副会長、イン・テ・ヨン氏による。
- ※18 環境改善モデル事業として、ソウル市と自治区が各々、歩きたい都市づくり示範街路造成事業、歴史・文化探訪路造成事業、車のない通り造成事業、屋外広告物整備事業などを実施している。
- ※19 ソウル市調査によると、60余りの衣類サービス業が密集している。
- ※20 鐘路区の建築物管理台帳によると、仁寺洞地区の全体建物の66.2%が木造韓屋であり、その中54.8%が1960年以前に建てられている。
- ※21 仁寺洞通りは、1990年代初期から「車のない通り」指定や「街路拡幅反対運動」等、様々な地域保存運動が展開されてきた。特に12店舗保存運動は、既存の韓国社会運動とは違い、歴史的環境をめぐる運動として、さらに「文化地区」まで導いた新たな運動として評価されている。詳細な運動展開については、参考文献3)を参照する。
- ※22 参考文献10)による。
- ※23 勉強会や公聴会で得られた市民意見書は、毎回行政に提出され、事業推進の必要性を訴えた。
- ※24 文化通り発展推進協議会の副会長によると、当時の露店主は通り沿い賃貸商人より収入や財産家が多く、その中では政治家の親戚等も含まれていた。
- ※25 住民委員会は、建大ファッション常設協議会の代表、老遊1洞商店街協議会の代表、建築主の代表2名、老遊1洞長で構成された。
- ※26 住民協定は、老遊通りの環境管理規範と位置付けられている。協定内容は、大きく運営主体と内容に区分できる。特に運営内容には、駐車管理、ゴミ等の環境整備、地域イメージ改善のための看板整備指針等が定められている。詳細内容は、参考文献8)を参照する。
- ※27 「12店舗を救う運動」は、数十年間伝統文化業を維持・継承した小型店舗によって形成された歴史的環境を保存するための運動である。詳細内容は、参考文献3)と11)を参照する。
- ※28 都市空間や都市問題を専門とする修士・博士課程学生や専門家の中心の勉強会であり、月2～3回仁寺洞地域について討論を行っている。

<参考文献>

- 1) 日本建築学会編(2004)、『まちづくり教科書1ーまちづくりの方法ー』、九善株式会社
- 2) 韓国・国土海洋府ホームページ <http://www.city.go.kr/cms/>
- 3) 郭東潤(2004)、『都市景観形成における住民参加システムのあり方に関する研究－韓国と日本のまちづくり活動組織に着目してー』、千葉大学博士論文
- 4) Dongyun Kwak(2005)、「A Study of the “Maul-Mandulgi” Residential Improvement Method in South Korea」, Proceeding of the Conference of Asia City Planning 2005, pp.1～7
- 5) 都市づくり市民連帯(2000)、『マウル・マンダルギ2000(韓国語)』
- 6) 金裕赫(1995)、「韓国セマウル運動25年の総括と将来展望－国家主導・国策的指導型運動の歩みと国民主導・自発的参加運動への転換」、日本都市計画学会『都市計画』No.195、pp.65～74
- 7) ソウル特別市(2001)、『既成市街地の環境改善都市設計(韓国語)』
- 8) 歩きたい都市づくり市民連帯(2001)、『富平文化の通り、新たな出発にむけて(韓国語)』
- 9) ソウル特別市(2002)、『仁寺洞地区単位計画(韓国語)』
- 10) ソウル特別市(2001)、『ソウル市文化地区指定及び運営方法の研究』、ソウル市市政開発研究院、pp.72
- 11) 郭東潤・北原理雄(2003)、「韓国における「マウル・マンダルギ」の特徴と課題－仁寺洞における市民団体の活動を中心に－」、2002年度日本建築学会関東支部研究報告集、pp.253～256

[2008年6月20日原稿受理 2008年8月4日採用決定]